



TITLE:

総合討論 (平成27年度 京都大学防災研究所 一般研究集会 (課題番号 : 27K-08) : 新世代SARがもたらす災害・環境モニタリングの進展)

AUTHOR(S):

大村, 誠

CITATION:

大村, 誠. 総合討論 (平成27年度 京都大学防災研究所 一般研究集会 (課題番号 : 27K-08) : 新世代SARがもたらす災害・環境モニタリングの進展). 新世代SARがもたらす災害・環境モニタリングの進展 2015: 共同研究 (一般研究集会) 27K-08.

ISSUE DATE:

2015-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/203208>

RIGHT:

Seed Question

(鈴木さん@JAXAの質問を受けて)

ALOS-2後継機にどのような機能があれば、我々のSAR研究コミュニティにおいて、どのような成果が期待されるか？

- ・ ALOS-2との干渉が可能であること
 - ⇒ 長期の地殻変動分布の検出
- ・ 地表変動研究における偏波の利用
 - ⇒ 地殻変動検出においても偏波の利用により、より精度の高い地殻変動が得られるかもしれない
 - ⇒ 研究者側で、そのような研究をもっと進めなければならないのでは
 - ⇒ フルポラリメトリユーザーとの観測競合を避けることで、観測機械の向上につながる
(地殻変動研究者と偏波研究者との共存)
 - ⇒ 例えば、入射角を共通化するだけでも効率化につながる
- ・ Level1.0データの提供は不可欠
 - ⇒ 解析範囲やアロングトラック方向の連結、SAR処理の高度化、データサイズのコンパクト化
- ・ 大量データの解析に対応したデータ提供の必要性
 - ⇒ 地殻変動の精密把握
 - ⇒ 地盤沈下だと 1観測/月/サイト×2(A/D) くらいのデータが必要
- ・ 次期SAR衛星のこの前に、ALOS-2の運用について議論すべきだ
 - ⇒ 我々(研究者サイド)の意見をあげられる機会はないのか？
PI会議で意見を述べられるが、それがどれくらい反映されているのかが分かりにくい
 - ⇒ Level1.0が必要だ
 - ⇒ もっとデータが必要だ
 - ⇒ 観測シナリオの見直し(見直しの会議に参加したい)
 - ⇒ 緊急観測の頻度が多すぎるのでは？
 - ⇒ 入射角は固定の方が良い(ベースマップ取得後は基本モードが主で頻度は改善される？)
 - ⇒ ベースマップの更新方法について、我々も意見を述べたい。
 - ⇒ ScanSARデータに関する不信感が大きな要因になっている。JAXA側での調査にも期待したい。

Seed Question

(次の10年の目標は？)

現在のSAR研究コミュニティにある**問題点**

- ・ 年間200シーンでは、我々の研究にはまったく足りない.
- ・ パワーユーザーが少ない(人材育成)
- ・ テキスト的なドキュメントの作成が必要？
⇒ 予算の獲得が必要
- ・ 新学術領域研究への応募
 - ・ アウトカムを明確にしづらい
 - ・ 戦略が必要
 - ・ たとえば、もっと細かな科研費を獲得し、実績を積む
- ・ 次世代火山研究・人材総合育成プロジェクトへの参加
 - ・ PIXELと連携する
 - ・ データセンターの設立
 - ・ ソフトウェア講習会を拡充？(他の講習会と協力)